



第11回

長島山願證寺（長島一向一揆）

（三重県桑名市長島町又木 181-3）

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は桑名市の願證寺を紹介いたします。本願寺八世蓮如の六男蓮淳が明応6年（1497）長島杉江の願證寺に迎えられて開基となりました。この杉江願證寺の故地は、明治時代の河川改修工事（木曾三川分流工事）により長良川の河床に沈みしました。現在の願證寺は寛政11年（1634）に旧杉江願證寺門徒のために長島又木に建立された祐泉寺（のちの誓来寺）が明治9年（1876）に寺号を変更したものです。境内には昭和50年（1974）に長島一向一揆四百年追悼法要で建立された殉教之碑が建ち、令和5年（2023）には長島一向一揆450回忌記念法要が営まれました。



願證寺本堂

によしゆんに

開基の蓮淳は願證寺と明応5年に赤野井坊舎を再興した堅田本法院を兼帯し、住持の死去で空座となった称徳寺（堅田御坊）や河内願證寺の住持も兼任、近江・伊勢・河内の教団発展に大きく貢献しました。同母弟である本願寺九世実如に近侍し、娘の子で幼少であった十世証如の後見人として二代続けて本願寺で大きな影響力を有しました。その間近江願證寺と布教地域が重複する有力寺院の堅田本福寺の三世明宗を3度も無実の罪に着せて破門にするなど、本来法主にしか許されない権限を執行する専横を見せました。加賀で起きた享禄の錯乱（大小一揆）では、異母兄弟が住持する賀州三ヶ寺（若松本泉寺・波佐谷松岡寺・山田光教寺）方ではなく、娘婿であった超勝寺実頭方（藤島超勝寺・和田本覚寺）に本願寺から派兵して兄弟やその家族など本願寺一家衆の処刑や追放を主導したとも言われています。

願證寺は蓮淳の功績により、永禄3年（1560）三世証恵の代に前年に本願寺十一世願如が准門跡に補されたことに伴い、本願寺一門衆に先駆けて河内願證寺、播磨本徳寺とともに院家を勅許されました。願證寺の支配は伊勢長島のみならず、木曾三川の輪中地帯にある尾張河内を拠点とする服部党や北勢と南濃の国人にも頼りにされて勢力を広げ、戦国大名の権力も及ばない事実上の治外法権を有するに至り、永禄10年織田信長に敗れた稲葉山城主斎藤龍興が河内長島に逃げ込んだことを機に信長の長島攻めが始まったとも言われています。天正2年（1574）、第3次長島攻めで長島城が落城した日に願證寺五世願忍が討死し、二世実恵の妻が海に入水、三世証恵の弟証栄が死去したほか、四世証意に嫁いでいた武田勝頼の妹菊姫も同日に死去したという伝承があるそうです。

長島の歴史を展示する資料館「輪中の郷」では、長島一向一揆を題材とした映像を希望すれば見ることが出来ます。俳優市原悦子さんが主演し一揆方を熱演しており、古い機器なので早めの観覧をおすすめします。



本堂内の長島一揆攻図略図



本堂前の長島一向一揆殉教之碑

参考資料

信長と長島一向一揆
パンフレット
（輪中の郷）ほか